

ある時ふと、疑問に思った。「このお金はどこからやって来ているのだろうか。」調べてみて、辿り着いた結果は「税金」だった。

私は幼い頃からチャリーディングをしている。人を持ち上げたり、バク転などの床運動をしたりする、激しいスポーツだ。合宿後や大会前は足や腰を痛めてしまうことが多くて、その度に病院に通う。医療証、保険証、診察券さえあれば、当たり前のように治療を受けることが出来る。料金など、一切発生しない。

「病院は無料で行ける場所だ」という考えを植え付けられていた私は、中学三年生になった今、ようやくはじめの疑問に気付き、学ぶこととなった。すると、税金の存在が私たちにとってどれ程重要だったのかを知り、驚きを隠せなかった。

私たちの医療費は、医療保険という制度に支えられ、窓口での自己負担額は実際の金額の一割から三割なのだ。医療保険は、加入した人が分担費を出し合い、その中から病気や怪我をした人の治療代にあて、助け合うシステムだ。しかし現実問題として、分担費だけで医療費をまかなうことは出来ないため、国が医療費の不足分を税金で補っているのである。また、私が暮らしている練馬区は、「医療費助成制度」がある。この制度は、練馬区在住の十八歳までの子供を対象として、窓口での残りの負担額を、練馬区が助成してくれているものだ。私はこのような制度を全く知らなかった。その為、医療費について誤解していたのだ。さらに、今まで当たり前のように受けていた健康診断や予防接種なども、税金などによってまかなわれていたことが分かった。私たちの健康を支え、安心な暮らしを守ってくれている税金に対し、今まで以上に感謝の念が目芽えた。

税金については、政治家の演説などでもよく耳にし、賛否両論ある。税金の使い道について批判したり、消費税廃止を呼びかけたりする政治家も多く見る。現時点、私がついて税金の知識はほんの一部に過ぎない。それでも私は、税金は今の生活に必要な不可欠なものだと思う。もし私が税に支えられていなければ、通院をためらってしまう。そうすると、大好きなチアも体の故障を気にして思う存分練習出来ないかもしれない。このように考えたら、やりたいことが自由に出来ているのは「税金」に支えられているからだと強く思った。

世の中には「納税は堅苦しく、面倒だ」と捉えている人もいると思う。しかし、納めた自分自身も恩恵を日々受けているし、時には誰かの命を守る。そんな税金を無駄使いしないように、自分で出来る身体のケアや体調管理をきちんと行って、税金のありがたみを必要な時にしっかりと受け取れるような人になりたい。そして、税金についてその大切さをさらに理解し考えを深め、今日も私は税金を納めようと思う。